

明石市立大蔵中学校だより「2020年11月10日(第83号)」

書あり 師あり 友ありて

山崎 伊織投手が指名あいさつに来られました

学校長 平田 高之



2020年プロ野球ドラフト会議で、読売巨人軍から2位指名を受けた本校卒業生の山崎 伊織投手(東海大学4年生・明石商業高校卒業)が、指名報告に来てくれました。

中学時代は、本校野球部ではなく「明石ボーイズ」に所属されていましたが、人丸小学校時代は「人丸ウイングス」に所属されていたので、身近な先輩がプロ野球選手にということに驚いた生徒の皆さんも多いのではないのでしょうか。少しお話を伺いましたので紹介します。

Q. 中学時代は

A. 友達とけんかをしたり仲良くしたり、先生に怒られたこともあったけれども、楽しい3年間で、いろんな意味で成長できたと思います。

Q. 高校時代は

A. 厳しい練習と、春の選抜大会には出場できましたが、夏の大会は県大会の決勝戦で敗れて甲子園に出ることができず悔しかったことが一番の思い出です。

Q. 大学時代は

A. 高校時代は練習をこなすので精一杯でしたが、大学では自分で考えるようになり成長できたと思います。

Q. 後輩へのメッセージを

A. 中学生活はとても楽しいと思うので、これからいろいろなことがあると思いますが頑張って下さい。(部活動をしている人へ)高校時代は2番手ピッチャーで試合に出られないことが多かったですが、環境や出会いで、努力が開花することもあるので我慢してがんばってほしい。

ご自身の高校時代は、明石商業高校が甲子園に初めて出場した「2016年第88回春の選抜高校野球大会」でベンチ入りはしましたが、甲子園での登板機会はありませんでした。その悔しさをバネに、春の県大会においては、決勝の報徳学園戦で完封勝利をする等活躍されました。しかし、夏の大会を前、肘を痛めて、最後の大会では、野手としての活躍はありましたが、投手としてほとんど投げることができませんでした。

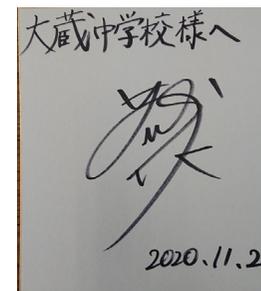
大学進学後は、東海大学でエースとして、また、3年生の時には、日米大学野球のメンバーに選出される等の活躍をされ、大学NO.1ピッチャーと評価されていましたが、再び肘を痛めて、この春には手術をされ、現在リハビリ中だそうです。

そんな中でも、2位指名を受けるほど、将来性が期待されていますが、ご自身が語られているように、故障や苦しい時の経験があったからこそ成長されたのだと感じました。

タイガースのライバル球団ですので、個人的には少し複雑ではありますが、本校卒業生のプロ野球選手としてのこれからのさらなる活躍をお祈りし応援できればと考えています。



ご本人の許可を得ています



同窓会にお願いしてお祝いの横断幕を作成しました

11月は「児童虐待防止月間」です

本市では、「子どもを核とした街づくり」の大きな施策の一つとして、「明石の子どもは明石で守り育てる」という考えのもと、「明石子どもセンター」を2019年4月に開設しました。学校と児童相談所の連携につきましては、昨年度「学校だより第4号」でお知らせしたところですが、11月は「児童虐待防止月間」です。全国的に、児童虐待相談件数は年々増加の一途をたどり、子どもの命が奪われる重大な事件も発生し、依然として深刻な社会問題となっていることから、文部科学大臣からメッセージが届きましたのでご紹介します。

保護者、学校関係者、地域の皆さまへ

「児童虐待の根絶に向けて ～地域全体で子供たちを見守り育てるために～」

11月は児童虐待防止推進月間です。

子供たちへの虐待は、児童相談所の相談対応件数が増加するなど、依然として極めて深刻な状況です。今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から、生活不安やストレス等に伴い、児童虐待のリスクが高まることも懸念されています。児童虐待により子供たちが傷つき、亡くなるようなことは、何としても無くさなければなりません。

虐待は、殴る、蹴るといった身体的虐待ではありません。言葉で脅す、無視するなどの心理的虐待、子供を残して外出する、自動車の中に放置する、食事を与えないなどのネグレクトや性的虐待もあります。いずれも子供たちの心身に深い傷を残します。

保護者の皆さま、大切なお子さまの健やかな成長のため、「虐待はしない」と誓ってください。子育てに不安や悩みがある時には、身近な人に相談したり、自治体の相談窓口等を頼ってください。

学校関係者の皆さま、日頃から子供たちと接する中で、児童虐待と疑われる事案に気付いた際は、速やかにチームとして対応し、市町村や児童相談所に通告するとともに、関係機関と連携して対応してください。

地域で子供たちと接する皆さま、是非、子供たちの様子に関心を持って見守ってください。日々の活動やつながりの中で児童虐待と疑われる事案に気付いた際は、最寄りの児童相談所に繋がる全国共通ダイヤル「189」(「いちばやく」)に相談・通告してください。

児童虐待の防止には、家庭・学校・地域が一丸となって子供たちを見守り、育てることが重要です。文部科学省としても、関係省庁とともに取組を推進してまいります。皆さまの御理解と御協力を心からお願い申し上げます。

令和2年11月
文部科学大臣

萩生田光一